



Eiche

Die Eiche ティ・アイへ

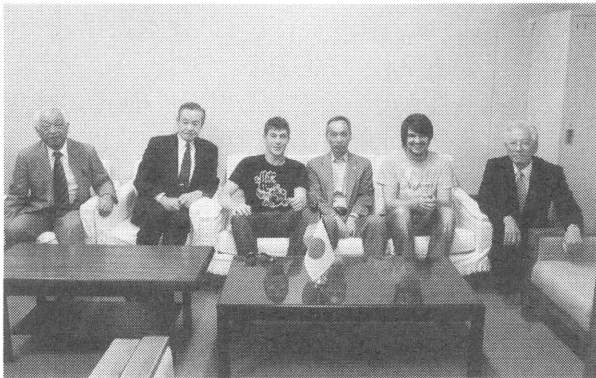
Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

ドイツ人学生研修プログラム

千葉県庁総合企画部依田部長を表敬訪問した二人



習志野霊園のドイツ柏の前にて。会長の右にクリスチャンとニクラウス



本年の当協会スペシャルイベントであるドイツ人学生研修プログラムは、8月25日から9月5日まで(11泊12日)、ドイツ人学生受入実行委員会と関係機関の絶大なる協力の下で、大成功裏に終了した。8月25日初来日の2人の男子学生(大学生 Christian Morgenstern 23歳と高校生 Nicolas Paulsen 17歳)は、成田国際空港で委員会の委員(橋口昭八常任理事、綿貫尚理事他)に迎えられ、最初の宿泊地千葉のバーデイホテルで平尾浩三実行委員長を初め、数人の委員から滞在中のオリエンテーションを受けた。2日目から11日目までは、千葉県庁や在日ドイツ大使館への表敬訪問、当協会の平尾浩三会長、尾田幸雄理事、大嶋里衣子会員による日本文化紹介、船橋市習志野霊園でドイツ人慰霊碑に献花、千葉県コンベンション・ビューローで千葉県の状況、幕張メッセ、かずさアカデミアについて研修した。その後も、ドイツと関係ある企業訪問(メトロ千葉店、新日鉄君津製鉄所、キッコーマン本社)、時谷邸、千葉大学・千葉市立千葉高校への訪問など(以下次ページ)

ドイツ研修旅行 歌日記(抄) 水野春美

- デュッセルドルフの「ヤーパーンターク」(六月十四日)に参加する千葉県庁、それへの応援を目的の一つとして、我ら三十三名、成田出発。デュッセルドルフへ。土砂降りの驟雨。やがて雨脚弱まり、舞台の乾燥の速きを願う。待ちに待った藤蔭静寿さん(我が協会会員)の「京鹿の子道成寺」、藤蔭静寿さん(協会理事)の「寿三番叟」。観客の視線と熱意、次第に舞台に釘づけ!
 - 「道成寺」恋に狂いて化身する狐のしぐさ舞へる静寿(デュッセルドルフ)
 - 「三番叟」日本舞踊の真髄をラインの河畔に舞ひあふる静寿(同)
 - 「ヤーパーンターク」ラインの一日くれ初めて東京音頭の輪の拡がれる(同)
 - ドン!ときどきよめき湧きて花火咲く白夜のライン川面焦がして(同)
 - 十五日以降、ゲート、ルター、バッハの足跡を訪ねる旅。感慨まことに深し。日本であらかじめ催された基礎勉強が有効であったと思う。
 - 赤々と夕日エルベに傾けばうす紅の白夜はじまる(ドレーズデン)
 - フラウエンキルへの鐘の鳴り渡るエルベの夕日中世さながら(同)
 - ポツダムの会議場にて今更に敗戦国の悲哀かみしむ(同)
 - ベルリンのホロコーストの碑の前にユダヤの今の行為かなしむ(同)
 - 壁消えて二十年経ち新たな見えざる壁に悩めるドイツ(同)
- 半世紀ソビエトの占領下にありながら、ドイツ文化の遺産を守り続けてきた旧東独人の誇り、併合後の復興に向けたドイツ国民全体の努力に称賛を送ると共に、この人たちが新たな苦悩を乗り越えて進まん事を心から願いつつ、ドイツを後にした。ガイド嬢の懇切なる説明に感謝します。

—今後の主な催し物案内—

1. 「ビール祭り」

- ・日時：10月11日(土) 午後5:00~7:00
- ・場所：馬酔木(あしび) 千葉店
千葉市中央区富士見2-5-5(三越立体駐車場横) JR千葉駅東口、又は京成線千葉中央駅東口から徒歩5分
電話：043-222-3838
- ・会費：3,500円

2. 「ドイツ軍人慰霊祭」

- ・日時：平成20年11月16日(日) 午前11:00より
- ・場所：船橋市営習志野霊園
JR総武線津田沼駅北口よりバスで約15分、「自衛隊前」下車。正門に向かい左側50m角を右折、徒歩7分右側です。お問い合わせは、事務局平野さんへ。
電話：047-467-6111
- ・直会：慰霊祭終了後、午後0:15頃より自衛隊構内で直会(なおらい)を行います。会費は、2,000円です。
尚、自衛隊構内入場の際は、事前に入場者の住所、氏名の届け出が必要。

以上

チター演奏会開催

9月20日(土)2:30~5:00PM
於 銀座アスター 津田沼賓館

台風13号の関東直撃で、場合によってはキャンセルも心配された第10回の日本チター協会会長、内藤敏子先生によるチター演奏会は、台風のコースが外れて秋晴れとなった9月20日(土)の14:30より、昨年と同じ銀座アスター津田沼賓館に会員、内藤先生の門下生など51名を集めて開催された。今回の演奏会には内藤先生が朗読家の八鍬(やくわ)よし子さんをお招きしチターと共演。八鍬よし子さんは日本を代表する朗読家・坂井清成氏に師事。国内及びドイツ日本人学校での公演で大きな反響を呼んでおられるとのこと。

まず内藤先生のチターによるメドレー演奏の後で、八鍬さんが内藤先生の静かな演奏をバックにして、○「竹の皮」(生方たつゑ作)を朗読。そして内藤先生が「わが夢の町ウィーン」を演奏。次は「第三の男」の演奏をバックにして、○「第三の男の並木」(松原きく子作)を朗読。更に、「カフェモーツァルト」演奏を楽しんで、最後は○「ひな菊」(アンデルセン作、大畑末吉訳)を朗読していただき、いつものチター演奏会とは一味違う癒しの時間を過ごした後、中華料理を食べながらの和やかな懇親会となり、5:00PM前に会は終了。

関係者の協力も得て、充実した研修の日々を過ごした。日程の後半は、観光立県千葉の魅力を研修すべく、佐倉、九十九里、銚子、犬吠埼、成田山、東京デイズニーランド等を見学し、東京と鎌倉見物では日本の歴史・文化、現代日本の象徴的な街を訪れ、見聞を広めた。会員との交流は歓送迎会を開催したが、限られた予算の中で、このプログラムが成功したのは、偏に委員会委員の献身的なボランティア活動とホームステイを快諾し、学生2人の臨時親代わりを勤めて戴いた伊藤惇子、大河内ロスウィータ、大友勝廣各委員のお陰である。ドイツ人学生2人が初めて異文化の日本を訪れ、十二日間を何を学んだのか彼等の研修レポートが非常に楽しみである。

尚、文中に登場していない委員(敬称略)は、国枝誠昭、宗宮好和、坂本宗秋、小野浩、館野鷹二郎、木戸芳子、水野春美、川口正光、森田芳夫、布施由未子、堀江弘隆、松崎寛記、須古正恒である。

(須古 正恒)

内藤先生、八鍬さんと平尾会長



ワイマール国民劇場前におけるドイツ研修旅行一行

